

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



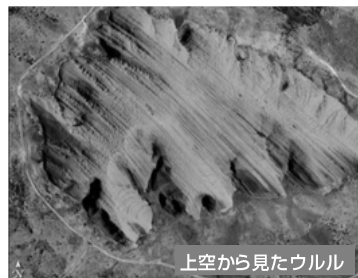
世界の窓

Vol.84 オーストラリア ウルル（エアーズロック）

皆さんはじめましてキャサリンです!! わたしは、オーストラリアのトーキーという海辺の町の出身です。わたしの出身地については後々このコーナーで紹介しますのでよろしくお願ひします。今回は、わたしの国を代表する、正式な名称は「ウルル」、世界的には「エアーズロック」の名で知られる自然の巨大岩をご紹介します。そこはわたしの人生観を変えたすばらしい場所です。

世界の国々や文化を紹介する「ワールズ・ウィンドウ」! 案内役は、国際交流員キャサリン・タツネルさんとアレックス・ロザウスキさんです。

広大な砂漠平原の真ん中、オーストラリアのほぼ中央に「ウルル」という大きい赤い岩山がそびえ立っています。348メートルに達する「ウルル」はユネスコ世界遺産に登録されており毎年40万人以上の観光客が訪れます。イギリスの探検家ウィリアム・ゴスが1873年、この岩山を「エアーズロック」と名付けましたが、「ウルル」はその地域の先住民であるアナング族（アボリジニの一部族）のピッティンジャラジャという言葉由来とする古くからの正式名称です。この土地と精神的に結び付きながら狩猟採集生活を送ってきたアナング族は、1万年ぐらい前からウルルの地域で暮らしてきました。



上空から見たウルル

現在、ウルルのある地域はかなり平地ですが、6億年前はエベレスト山より高い8,000メートル以上の山脈があったと言われていました。5億年前にその山脈が浸食されて消滅し、山脈を形成していた土砂が扇状地に覆いかぶさり硬い砂岩に変わりました。

その砂岩の岩盤は4億年前の地殻変動で、地中に入り込むようにVの字（約90度）に曲がってしまいました。近くにあるオルガ山は同じ岩盤の一部です。それから3億年の間浸食され、特に硬い部分がむきだしになりました。ウルルはこのような巨大な岩板が地下深く伸びているものの一部なのです。地表に出ている部分は全体のわずか5%にすぎません。ウルルには扇状地だったことを示す縦縞があり、雨が降るとこの縞を水が伝い流れ、きれいな滝になります。この地域の年間降水量は307.7mmしかないのでもし見ることができればとてもラッキーだと思います。



雨が降るとこのような滝が

ウルルは遠くからは滑らかな岩に見えますが、表面に近づくと洞窟があり、割れ目や裂け目もあります。ウルル表面の土には鉄分が入っており、鉄分が酸化して赤くなります。そのため全体が赤く見えます。岩が落ちたところや洞窟の中では、ウルルのもとの色である灰色の部分を見ることができます。

昔から多くの観光客がウルルを訪れます。その目的は登山のためです。頂上までの登山道は800メートルで、2、3時間ぐらいか



すごい急斜面の登山道

かります。最初の3分の1はとても急な坂道で、最大斜度が46度にもなるので鎖に捕まって登ります。ウルルの登山道は毎日開いているわけではありません。2008年にはたった36日しか開きませんでした。なぜかということ、登山口はさまざまな条件によって閉鎖されるからです。例えば、気温が36度以上と予報されている日や25ノット以上の風が吹いている日、雨や雷が3時間以内に発生すると予報されている場合や救援活動が行われている場合などです。また、アナング族の伝統的な行事が行われることによって閉める場合もあります。

私は学校を卒業後、仕事を探すために出身地から2,000 km離れたウルルの近くのリゾート地「ユララ」に引っ越しました。そこで1年半、ツアーガイドの仕事しながら砂漠の中で暮らし、貴重な経験ができました。特に砂漠の色々な表情を感じるのとはすばらしい体験でした。たとえば、雨が降るととても独特の匂いがあり、植物が急に成長したり、動物と虫が出て来て、ウルルのふもとの水場がいっぱいになったりすることがありました。

毎日お客さんと国立公園に入るのはとても楽しかったです。特に、日の出と日の入りは面白いです。太陽の当たり方でウルルの色は変わります。大気、雲、晴れ、雨などによってウルルと空の色が異なり、毎日違った表情を見せます。鮮やかな赤色は最高ですが、紫、オレンジ、灰色などにも変わります。1年365日ひとつとして同じ表情はなく、ウルルの日の出と日の入りは何百人もの観光客を魅了しています。

ツアーガイドの仕事は楽しかったですが、夏は大変暑くて気温45度を超える日もありました。また、ユララの隣町の中心地までは443 kmもあり、やかんが壊れて新しいものを買いに行った時はとても大変でした!

オーストラリアの中心部は本当にユニークな地域で魅惑的な雰囲気があります。皆さん、機会がありましたらぜひ行ってください。大自然が生んだすばらしい景観にきっと心が奪われ人生観が変わりますよ。



ガイドをしていたころ日本の友人と